

令和5年度島根県立大学人間文化学部
学校推薦型・総合型選抜 社会人・学士 帰国生 私費外国人留学生特別選抜
地域文化学科 小論文問題

【問題】 次の文章を読み、あとの問いに答えよ。

列車の客室に、今まで互いに会ったことのない二人の英国人がたまたま向かい合わせの席に座ったとしたら、いったいどういふことが起こるだろうか。考えるまでもあるまい。この二人は、まず間違いなく、その日の天気のことについて話し始めるに違いない。天候という話題にこの二人がたまたま興味があったからそういうことになった、という場合もあるかもしれないが、ほとんどの人は、別に気象条件の分析に格別の興味があるというわけでもないだろう。してみると、こういったたぐいの会話が始まるについては、①何か別の理由があるからに違いない。

二通りの解釈が考えられる。第一の解釈によれば、こういうことになる。知らない人と一緒になって、しかも何も話さないというのは、かなり気まずいものだ。黙りこくっていると、雰囲気はややもするとこわばって来る。ところが天候といったような何でもない話題について話しかけると、実際には大したことを言わなくても、相手の人とある種の関係を結ぶことができる。列車の客室でこういった会話が行われるということは——伝説的に信じられているほどひんぱんに起こることではもちろんないのだが、しかし起こることは起こる——言語が果たす重要な社会的機能を示す一つの好い例である。言語はただ単に情報——天候であれ何であれ——の伝達手段であるだけではない。言語というのは、他の人といろいろな関係を結び、その関係を保っていくための重要な手段でもあるのだ。上にあげた二人の英国人の会話の例でおそらく最も重要なことは、彼らは何についてしゃべっているかということではなく、現に話し合っているという、その事実なのである。

もう一つ別に、第二の解釈もある。上の例で、一方の英国人がもう一人のことを、たとえばどんな仕事をしているのだろうかとか、どういう社会的な地位を占めている人なのかとかいったことについて、おそらくは無意識のうちに知りたいと思うであろうことも大いにあり得る。こういった情報がないと、その人に対して自分がどのような態度で接したらいいのか、落ち着かない気分になるだろう。もちろん身につけている服だとか、その他目につくヒントから、あれこれ知的想像力をはたらかせて推測することはできる。しかしその人の社会的背景について直接きいてみるというようなことは、少なくとも今のこの段階では到底できない相談である。できることといえば——そしてこういう面についていろいろ考えるのは、やはり無意識のうちに行われるのが普通だが——まずはともあれその人を話に引き込むことである。そうすれば多分、その人についてのある種のことが、かなりたやすく分かるものだ。こういう事柄というのは、その人が何を言ったか、ということよりもむしろ、どう言ったか、ということによって知ることができる。というのは、私たちが何か話す

と、自分の生まれやどんな人間かといったことについての何らかの手がかりを、必ず聴き手に与えてしまうものなのだから。発音の訛りとか言いまわしによって、どの地方から来たのか、あるいはどういうバックグラウンドを持った人間か、などが分かるし、さらにはどういう物の考え方をし、どういう心情の持主かについても、ある程度分かる。そしてこういう情報がすべて相手に利用されて、私たちについての評価を下す助けとなるのである。

言語行動のこれら二つの面、つまり、第一に種々の社会的関係を結ぶという言語の機能と、第二に話し手についての情報を伝えるという言語の役割、この二つは、社会的な立場から見て大変重要である。(中略) そして、それらはともに、②言語と社会との間に密接な相互関係があるという事実を反映するものであることは明らかである。

出典：P. トラッドギル（著）土田 滋（訳）『言語と社会』岩波書店、2016 年（一部改変）

問1 下線部①について、筆者の述べる理由を 60 字以内でまとめよ。(40 点)

問2 本文の主旨を踏まえたうえで、あなた自身が知る具体的な例を示しながら、下線部②に対するあなたの考えを 800 字以内で述べよ。(110 点)